

フランソワ・ブーシェ《アウロラとケファロス》の制作経緯

九州大学大学院 田中優奈

フランソワ・ブーシェ (1703-1770) が制作した作品は油彩画だけでも 700 点にのぼると言われており、各地の美術館に所蔵される作品のなかには来歴に不明瞭な部分を残すものも少なくない。本発表でとりあげるヤマザキマザック美術館の《アウロラとケファロス》(以後、本作とする) もそのような作品のひとつである。本作は、イギリスのグレゴリー家が 1937 年まで所蔵していたもので、同家の伝承から 1745 年にポンパドゥール夫人のベルヴェユ城のために制作されたとされている。本発表では、この来歴について再検討を行うとともに、ブーシェの諸作品との様式的比較を行うことで、作品の制作年代について考察する。

A・アナノフのカタログレゾネでは、本作についてベルヴェユ城のための注文という経緯と、1745 年という制作年が提示されている。現在の所蔵館でもこの説が一応は受け入れられているが、伊藤巳令氏はカタログの解説の中で各モチーフの描き方の類似からむしろ 1750 年代初頭の作ではないかとの見解を示している。《ネプチューンとアミュモネ》(1750 年頃)、《フラジョレを吹くニンフとアモル》(1750 年頃) などの作品において、注目すべき類似点はあるもののモチーフの流用は画業を通して見られるものであり、これらの類似から制作年代を特定するのは困難である。

本作の注文について、グレゴリー家の伝承についても再検討が必要であろう。ポンパドゥール夫人がルイ 15 世の愛妾となるのが 1745 年で、ブーシェのパトロンとなるのはその後のことであり、またベルヴェユ城の建設が始まったのも 1748 年のことである。1745 年という制作年代は、本作についての直接的な記録というよりも、おそらくはグレゴリー家が所蔵していた別のブーシェ作品である《恋文》からの類推である可能性が高い。計 5 点の連作として制作された《恋文》には 1745 年の年記があり、また様式的にもこの制作年代に疑いはない。しかし、この頃にはまだベルヴェユ城の建設ははじまっておらず、本来の設置場所は他にあったはずである。グレゴリー家に所蔵されていたブーシェの諸作品については、この時点で既に来歴・制作年についての情報の混乱があったと考えることができる。

本作の制作状況について考察を進めるためには、ブーシェの画業全体のなかに位置づけることが必要である。本作に見られる円形の明暗表現やルーベンス的な要素は、1740 年代から徐々に見られるようになったものであるが、1750 年代にははっきりと形をとるようになった。《アポロンの戦車》(1753 年) や《日の出》(1753 年)、《日の入り》(1752 年) との類似は特に注目に値する。1750 年代の作品と共通点が多く見出せることから、本作の制作年を 1750 年代にまで下げる見解には妥当性があると言える。さらに、本作の明暗表現に加えて鮮やかな色彩とやや荒い筆触は、ブーシェの画業の後半に見られる傾向である。仮に 1750 年代の作だとすれば、ポンパドゥール夫人によるベルヴェユ城の装飾の時期とも合致するといえよう。